

# 諸外国の教育改革に見る 21世紀型の資質・能力と学びのイノベーション

1 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部  
松尾 知明

はじめに

1. 近代型能力からポスト近代型能力へ
  - (1)工業社会と近代型能力
  - (2)知識基盤社会とポスト近代型能力
  - (3)変化の激しい世界と社会を生き抜く力
2. 能力観の変化とコンピテンシー
  - (1)リテラシー概念の展開
  - (2)リテラシーからコンピテンシーへ
3. コンピテンシーに基づく教育改革の国際的動向
 

イギリス、ドイツ、フランス、フィンランド、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、韓国
4. TeachingからLearningへのパラダイム転換
  - (1)教育目標:コンテンツからコンピテンシーへ
  - (2)教育内容・教材:学校知識からオーセンティックな知識へ
  - (3)教育方法:教授からアクティブラーニングへ
  - (4)教育評価:テスト評価から真正の評価へ

おわりに

はじめに

## コンピテンシーに基づく教育改革の世界的潮流

コンピテンシー(資質・能力)の育成

=知識だけではなく、スキル、さらに態度  
を含んだ人間の全体的な資質・能力

知識基盤社会 ⇒ コンピテンシーの育成が多くの国で課題に  
教育改革の方向 **何を知っているのか→何ができるのか**  
実生活・実社会における知識の活用

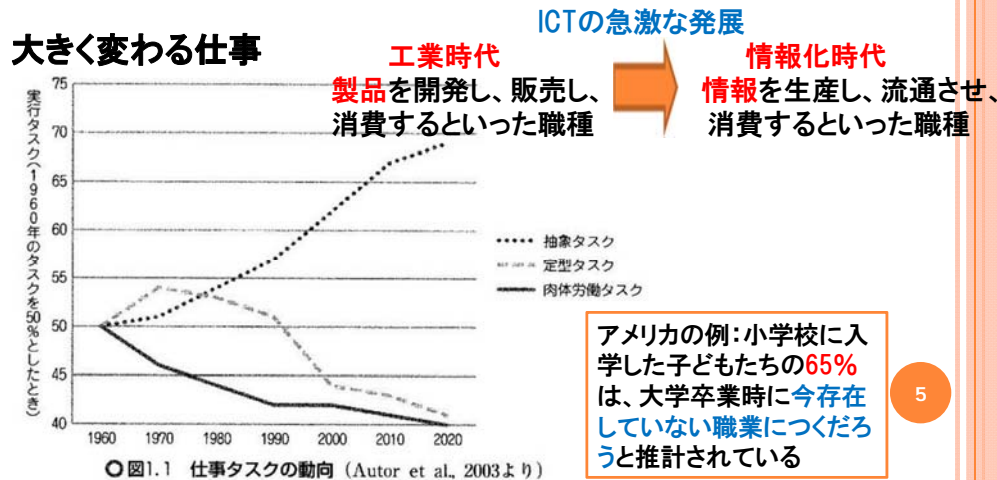
社会がどのように変化し、いかなる能力が必要となってきたのか?  
コンピテンシーに基づく教育改革はどのように展開しているのか?  
どのような学びのイノベーションが求められているのか?

1. 近代型能力からポスト近代型能力へ  
社会的が変化する中で、求められる能力がいかに変化してきたのか?

- (1)工業社会と近代型能力
  - ・産業革命→フォーディズム  
大量生産・消費、組み立て生産ライン経営  
チャップリン モダンタイムズ
  - ・工場モデルの学校制度  
単純労働を支える急増する生徒  
学年制や試験制度⇒能力別に振り分け  
教科・教科書⇒知識の専門分化や標準化  
単位時間・時間割⇒時間・場所の管理  
教師主導 知識の効率的な伝達
  - ・求められる力 基礎的な知識や技能の習得

## (2)知識社会とポスト近代型能力

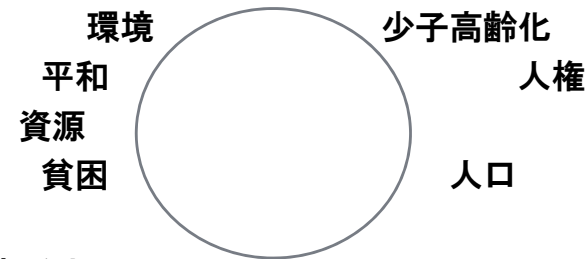
- ・知識革命→知識社会、デジタル社会
- 知識、情報、サービスの創造が経済発展の基盤
- 情報通信技術(ICT)の急激な発展
- ポストフォーディズム
- より柔軟で個別化・多様化された生産様式へ



5

## (3)変化の激しい世界と社会を生き抜く力

- ・直面する課題



- ・求められる力

変化の激しい社会、予測不可能な世界、  
専門家さえ答えをもっていない世界への対応

限られた情報をもとに、「自立」した個人が、知恵を出し合い「協働」して、「創造」的に問題解決を図っていくといった「社会を生き抜く力」=コンピテンシーが必要に  
問題解決能力、コミュニケーション力、創造力

6

## 2. 能力観の変化とコンピテンシー

### (1)リテラシー概念の展開:読み書き能力から情報処理能力へ

リテラシーといえば・・・名前を書けるか、ある学年の読みの得点

⇒情報処理能力としてのリテラシー

(1985年の青年リテラシー調査:YALS)

- ・リテラシーの分類:新聞、商品の説明書、地図、保険の契約書、確定申告書など、テキストだけではなく図表や計算も

①文書読解力、②図表読解力、③計算(quantitative literacy)

- ・リテラシーのプロセス

①テキスト内の情報の発見(locating)、②テキスト情報の解釈(interpreting)と生産(producing)、③テキスト情報からのテーマや組織的原理の生成(generating)

7

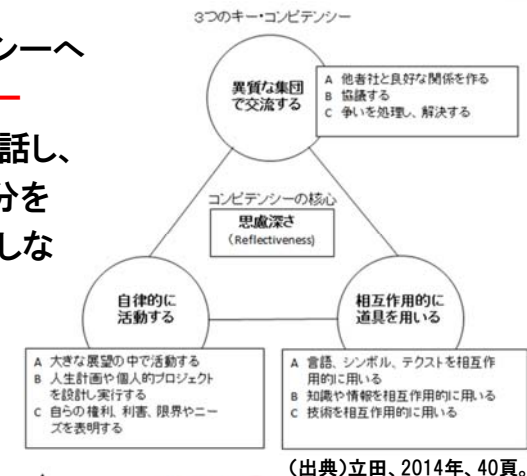
### (2)リテラシーからコンピテンシーへ

#### ①OECDのキー・コンピテンシー

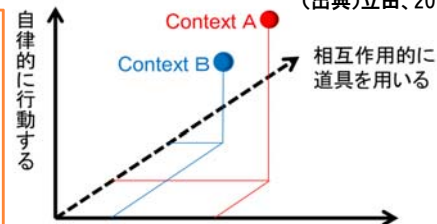
＝道具を介して対象世界と対話し、異質な他者と関わり合い、自分をより大きな時空間の中に定位しながら人生の物語を編む能力  
(松下、2010)

省察性(reflectiveness)  
がすべての核心

シュライヒャー「デセコの総合的な枠組みは、一層大きな概念的な文脈の中に各調査を位置づけ、現在の調査の限界を知る方法を提供してくれる。キー・コンピテンシーの三つのカテゴリーは、より広い範囲のコンピテンシーを獲得する方向に向けて将来の調査方法を体系的に拡張する道標となる」(ライチエン&サルガニク 2006, p.191)



(出典)立田、2014年、40頁。



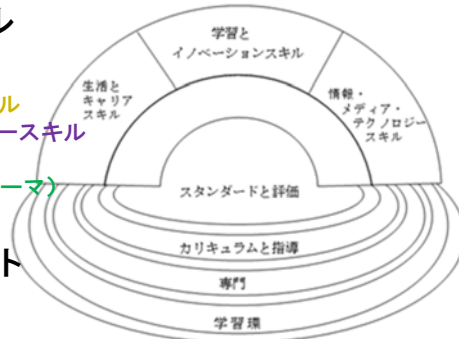
異質な人々からなる集団で互に関わり合う  
(出典)ライチエン、サルガニク編、2006年、209頁。

8

## ② デジタル社会と21世紀型スキル

### i. 21世紀型スキル運動

- 3つのコアスキル
- 学習とイノベーションスキル
  - 情報・メディア・テクノロジースキル
  - 生活とキャリアスキル
- (コアとなる教科と学際的テーマ)



### ii. ATC21S 国際研究プロジェクト

#### 21世紀型スキル

4領域からなる  
10個のスキル  
として整理

- 思考の方法 (Ways of Thinking)
- 働く方法 (Ways of Working)
- 働くためのツール (Tools for Working)
- 世界の中で生きる (Living in the World)

21世紀型スキルの枠組み  
(出典) Trilling & Fadel, 2009, p.119.

9

## 3. コンピテンシーに基づく教育改革の国際的動向 コンピテンシーに基づく教育改革はどのように展開しているのか？

- **イギリス**: キースキルから知識への振り戻し
- **ドイツ**: PISAショックを契機に目標-成果管理システム構築
- **フランス**: 全ての子供に共通基礎を
- **フィンランド**: コンピテンシー育成への早くからの取組
- **オーストラリア**: 資質・能力を教科等の内容へ埋め込み
- **ニュージーランド**: 資質・能力と内容をつなぐのは学校や教師
- **アメリカ**: コモンコアと21世紀型スキル
- **カナダ・オンタリオ州**: 成果を上げる教育改革
- **シンガポール**: 効率(efficiency)志向から能力(ability)志向へ
- **韓国**: 特色ある学校カリキュラムの推進

10

### イギリス: キースキルから知識への振り戻し

#### ○ 資質・能力の構成要素

1999年版 NC 6つのキースキルと思考スキルの登場

キースキル	コミュニケーション、数の応用、他者との協力 自分自身の学習と成績を改善する能力、問題解決
思考スキル	情報処理スキル、推論のスキル、探求のスキル、 創造的な思考のスキル、評価のスキル

#### ○ 領域固有性...知識とスキルの深い関係、転移は簡単に起こらない

2010年 キャメロン保守党・自由民主党連立政権

- ・ゴープ教育大臣: 「ナショナル・カリキュラムはすべての子どもが身につけるべき本質的な知識 (essential knowledge) - 事実、概念、原理、基礎的な運用 - に限定して定め」...
- ・オーツ(T. Oats) NC専門委員会座長「われわれは転移可能なスキルだけを教えることで十分であるという考え方には同意しないということをはっきりと述べておきたい、...汎用的なスキルや能力は重要ではあるけれども、そのまま単独で教えることはできない。こうしたスキルや能力は内容を伴う文脈で教えなければならない。」

#### ○ 2014年版 NC...スキルよりは教科の知識が重視

- カリキュラムを精選、英数理は詳細に、NCカリキュラム50%・学校カリキュラム50%
- 中核教科: 英語、算数/数学、理科
- その他の基礎教科: 美術とデザイン、シティズンシップ、コンピュータ、デザインと技術、外国語/近代外国語、地理歴史、音楽、体育
- その他の必修: 宗教教育、性教育、キャリア教育、労働体験学習、準必修: PSHE

#### ○ 教員を支援する学校職員の拡充、授業の準備時間の導入...

11

### ドイツ: PISAショックを契機に、目標-成果管理システムの構築

KMK(常設各州文部大臣会議): 格差是正と学力向上

#### ○ 資質・能力の構成要素

##### コンピテンシー

- ① 事象コンピテンシー
- ② 方法コンピテンシー
- ③ 自己コンピテンシー
- ④ 社会コンピテンシー

#### ○ 目標-成果管理システム: ニューパブリックマネジメントの手法を導入

- ・連邦レベルで教育スタンダードの導入: 各学校種修了段階で到達目標を設定

基礎学校修了段階	ドイツ語、数学
基幹学校修了段階	ドイツ語、数学、第一外国語(仏・英)
前期中等教育修了段階	ドイツ語、数学、第一外国語、生物、化学、物理
ギムナジウム修了段階	ドイツ語、数学、第一外国語(仏・英)

#### ・学力テストによる到達目標の評価一貫の保証

- フンボルト大学: 教育制度における質的開発のための研究所(IQB)の設置
- ・国際レベル: 国際的な学校成績調査(PISA, TIMSS, PIRLS/IGLU)
- ・国レベル: 教育スタンダードの達成の州間比較(VERA)
- ・州レベル: 州単位での学習状況調査(カリキュラムや授業の改善)

12

## フランス:全ての子供に共通基礎を

### ○資質・能力の構成要素

2005年学校教育基本法(フイオン法)

#### 共通基礎

- ①フランス語の習得 ②一つの現代外国語の運用
- ③数学の基礎原理及び科学的技術的教養
- ④情報通信に関する日常的な技術の習得
- ⑤人文的教養 ⑥社会的公民的技能 ⑦自律性及び自発性

### ○学習期と学習指導要領

基礎学習期(小1, 2年)、深化学習期(小3~5年)、適応期(中1年)、中間期(中2, 3年)、進路指導期(中4年)、進路決定期(高校1年)、最後期(高2, 3年)

小学校(1, 2年):フランス語、数学、体育、外国語、芸術と芸術史、世界の発見

小学校(3~5年):フランス語、数学、体育、外国語、実験科学・技術、人文的教養

### ○教科を越えた領域

基礎学習期:世界の発見、コレージュ:発見学習、リセ:個別課題研究

### ○共通基礎の評価と個別支援措置

共通基礎の習得状況を評価(小2, 6, 中4の修了時)、個人記録簿の作成

共通基礎の習得が困難な場合にプログラム(教育成功個別プログラム(PPRE))

13

## フィンランド:コンピテンシーの育成に早くから取り組む

### ○1994年版の全国教育課程基準 コンピテンシー・ベースに

#### ○資質・能力の構成要素

2001年 基礎教育における国家目標と授業時数配分に関する政令

#### 基礎教育の国家目標 コンピテンシー

- ①人として・社会の一員としての成長
- ②生きるために必要な知識とスキル
- ③教育の平等の推進と生涯学習の基礎づくり

### ○2004年版の全国教育課程基準

・母語、A言語、B言語、算数、数学、環境、生物・地理、物理・化学、健康教育、宗教/倫理、歴史・社会、音楽、美術、手工、体育、家庭科、進路指導、選択科目

・教科横断的テーマの導入(人間としての成長、文化的アイデンティティと・・・)

・特徴 ①言語教育の重視 ②芸術系教科の重視 ③教科横断的テーマの設定

### ○2016年版の全国教育課程基準(草案) 7つのコンピテンシーの埋め込み

- L1) 思考力、学ぶことを学ぶ(learning-to-learn)
- L2) 文化的コンピテンス、相互作用、表現力
- L3) 自立心、生きるための技能/自己管理・日常活動の管理・安全性
- L4) マルチリテラシー(多元的読解力) L5) ICTコンピテンス
- L6) 職業において求められるスキルと起業家精神
- L7) 参加・影響・持続可能な未来の構築

14

### ○個別ニーズの把握、きめ細かい指導、特別支援教育の充実、高い教員の質

## アメリカ:コモンコアと21世紀型スキル

### ○資質・能力の構成要素

#### ・大学・キャリアレディネス(CCSS)

#### ・21世紀型スキルー 3つのコアスキル

##### ○学習とイノベーションスキル

批判的思考と問題解決、コミュニケーションと協働、創造とイノベーション

##### ○情報・メディア・テクノロジースキル

情報リテラシースキル、メディアリテラシースキル、ICTリテラシースキル

##### ○生活とキャリアスキル

柔軟性と適応性、進取と自己方向づけスキル、社会/文化横断的スキル、生産性/アカウンタビリティスキル、リーダーシップと責任スキル

### ○コモンコア・ステートスタンダード(CCSS)

全米知事会(NGA)・全米州教育長協議会(CCSSO)のリード、43州とDCが採択

英語・言語技術(歴史/社会科、科学、技術のリテラシー)

算数・数学

パーク(PARCC)とスマター・バランスト(SMARTER)一新評価システムの開発と実施

### ○21世紀型スキル運動:19州がパートナーに

スタンダード、評価、専門研修、ICTなどで21世紀型スキルの活用

### ○理科のスタンダードも(NGSS)

15

## カナダ・オンタリオ州:成果を上げる教育改革

### ○資質・能力の構成要素

・21世紀型スキル:定義と育成のプロジェクト進行中

・学習スキルと学習習慣:責任感、自己管理能力、コラボレーション、学習への積極性、自律性

### ○オンタリオ州カリキュラム

・内容スタンダード:「何を教えるか」を規定

初等学校(第1-8学年):芸術、第二言語としての仏語、保健体育、言語、

算数・数学、先住民の言語、科学と技術教、社会科

・パフォーマンススタンダード:「どのレベルで教えるか」を規定

(知識と理解、思考、コミュニケーション、適用能力)、到達度をレベル1~4で階層的に設定

州の基準レベル3

### ○マギンティ知事による教育改革

・前政権の標準化施策(1995年~2003年)

州カリキュラム改革と州統一学力調査の導入

・現政権の教育戦略(2003年~現在)

・明確な目標の設定

・教師の指導力向上戦略

・州カリキュラムと連動した成績表

・読み書き計算能力開発室(LNS)

16

## オーストラリア: 資質・能力を教科等の内容へ埋め込み

### ○資質・能力の構成要素

- ・汎用的能力: ①リテラシー、②ニューメナシー、③ICT技能、④批判的・創造的思考力、⑤倫理的理解、⑥異文化間理解、⑦個人的・社会的能力
- ・2,4,6,8,10年、あるいは、2,6,10年次修了時点の到達基準の設定

### ○資質・能力と教科等の内容

- ・教科等の内容ごとに汎用的能力の整理(総則)
- ・教科等の内容に汎用的能力を扱う指導個所にアイコンを埋め込み

### 3次元のカリキュラム

教科等の内容  
英語、数学、科学、人文科学と社会科学、  
芸術、言語、健康と体育、テクノロジー

汎用的能力

学際的カリキュラム優先事項

学年

○資質・能力を育てる授業作りへの支援

- ・ウェブ版: 教科等の該当箇所から教員向けポータルサイトへ移動が可能
- ・豊富なデジタル教材の入手、コミュニティでの話し合いが可能

http://www.australiancurriculum.edu.au/[アクセス: 2014. 9]

## ニュージーランド: 資質・能力と内容をつなぐのは学校や教師

### ○資質・能力の構成要素

- キーコンピテンシー: ①思考力、②言語・シンボル・テキストの使用、  
→手段かつ目標 ③自己管理、④他者との関わり、⑤参加と貢献

### ○資質・能力と学習領域

#### <前半: 理念>

目的と範囲、概要、ヴィジョン、原理、  
価値、キーコンピテンシー...

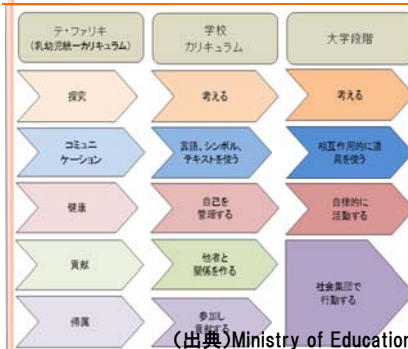
#### <後半: 学習領域>

英語、芸術、保健・体育、言語学習、数学・  
統計、科学、社会科学、テクノロジー

・前半(理念)と後半(学習領域)をつなぐのは学校や教師

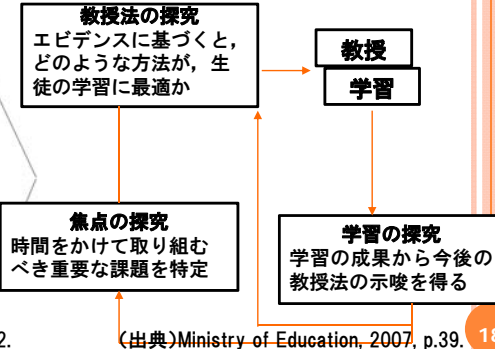
### ○ウェブサイト NCiに関する豊富な情報提供、教育評価ツールの専用サイト

### ○コンピテンシーの段階的育成



(出典) Ministry of Education, 2007, p.42.

### ○探究的教授法のプロセス



## シンガポール: 効率(efficiency)志向から能力(ability)志向へ

### ○教育改革

- 1997年 思考する学校、学ぶ(Thinking School, Learning Nation: TSLN)
- 2004年 少なく教え、多くを学ぶ(Teach Less, Learn More: TLLM)  
→教育内容10-20%削減、教員に1週間に2時間の教材研究の時間

### ○資質・能力の構成要素 カリキュラム2015

#### ・コアの価値

尊敬、責任、誠実、ケア、ねばり強さ、調和

#### ・社会的・感情的コンピテンシー

自己意識、自己管理、責任ある意志決定、社会的意識、関係管理

#### ・21世紀コンピテンシー

公民的リテラシー、グローバル意識、文化横断的スキル、  
情報とコミュニケーションスキル、批判的・創造的思考

### ○シラバス

- ・小学校1~4年: 英語、民族母語、数学、理科、公民・道徳教育、美術、音楽、保健、社会、体育
- ・小学校5・6年: 英語、民族母語、数学、理科は、上級・標準・基礎の3段階から選択履修
- ・中学校: コース別(快速コース、普通(学術)コース、普通(技術)コース)

### ○教員及び指導スタッフの増員、30人学級の実現、

授業研究の時間の確保、100時間の研修時間の保障

## 韓国: 特色ある学校カリキュラムの推進

### ○資質・能力の構成要素

#### 核心力量の育成(⇐DeSeCo)

自己理解力、意思疎通能力、論理力、想像力/創意力、  
文化的感受性、問題解決能力、市民共同体精神、リーダーシップ

・核心力量は検討されたが、導入には至っていない。

### ○2009年12月 未来型教育課程、「グローバル創意人材」の育成

・学年群(小中高の12年間を2~3年ごとにまとめる)

1~2学年(基礎学習充実期)、3~4学年(自己主導学習能力開発期)、5~6学年(基本学習完成期)、7~9学年(自我探索期)、10~12学年(進路確定期)

・教科群 10→7(道徳と社会→社会・道徳、科学と実学→科学・実科、音楽と美術→芸術)

初等学校(1~2年): 国語、数学、正しい生活、賢い生活、楽しい生活

初等学校(3~6年):: 国語、社会・道徳、数学、科学・実科、外国語、体育、芸術

と創意的体験活動(自立活動、クラブ活動、奉仕活動、進路活動)

中学校: 国語、社会・道徳、数学、科学・実科、外国語、体育、芸術、選択

と創意的体験活動

・総時間数の20%についての時間配当の増減は学校の裁量

○パフォーマンス評価(遂行評価)のいち早い導入と定着

## コンピテンシーに基づく教育改革の世界的潮流

- A.コンピテンシーに基づく教育課程改革は**世界的な潮流**となっている。
- B.コンピテンシーの育成については、国の状況に応じて、**独自のアプローチ**をとっている。
- C.今日的な資質能力は、整理すると「**基礎的リテラシー**」「**認知スキル**」「**社会スキル**」の3つにおおむね分けすることができる。

DeSeCo	EU	イギリス	オーストラリア	ニュージーランド	(アメリカほか)
キーコンピテンシー	キーコンピテンシー	キースキル と思考スキル	汎用的能力	キー コンピテンシー	21世紀スキル
相互作用的 道具活用力	言語、記号の 活用	第1言語 外国語	リテラシー		
	知識や情報の 活用	数学と科学技術の コンピテンシー	数字の応用	ニューメラー	言語・記号・テキスト を使用する能力
反省性(考える力) (協働する力) (問題解決力)	技術の活用	デジタル・ コンピテンシー	情報テク ノロジー	ICT技術	情報リテラシー ICTリテラシー
	大きな展望 人生設計と個人 的プロジェクト 権利・利益・限界 や要求の表明	進取の精神 と起業精神	問題解決	倫理的行動	自己管理能力
自律的 活動力	社会的・市民的 コンピテンシー	協働する	個人的・ 社会的能力	他者との関わり	キャリアと生活
異質な集団 での交流力	協働する力 問題解決力	社会的・市民的 コンピテンシー 文化的気づきと表現	協働する	異文化理解	シティズンシップ 個人的・社会的責任

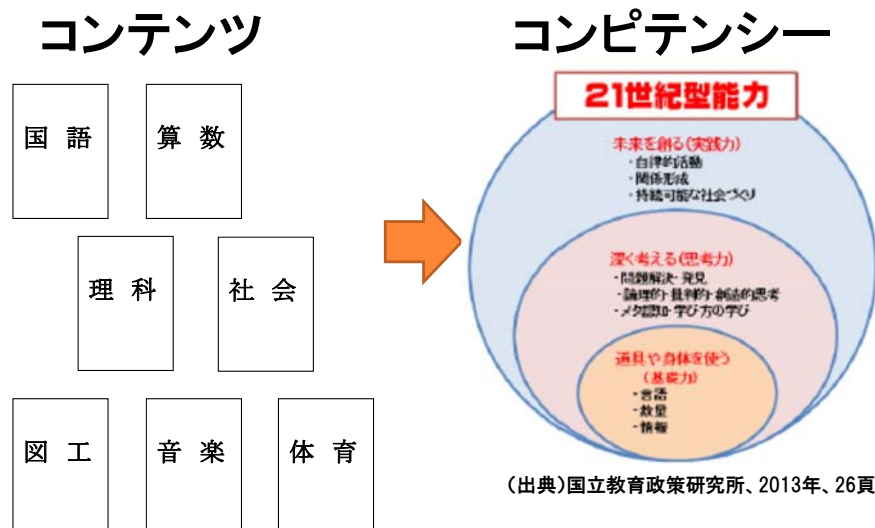
21

## 4. TeachingからLearningへのパラダイム転換 どのような学びのイノベーションが求められているのか？

	教育目標	教材／内容	教育方法	教育評価
Teaching	教授 知識の習熟	事実・法則 二次資料 教科書	情報の伝達	テスト評価 総括的評価
Learning	コンピテン シー(真正 の学力)	大きな概念 二次資料 多面的な教 材	アクティ ブラーニ ング 探究、協働 学習	真正の評価 形成的評価 +総括的評 価

22

### (1)教育目標：コンテンツからコンピテンシーへ



23

### (2)教育内容・教材：学校知識からオーセンティックな知識

授業デザインの事例 <https://www.youtube.com/watch?v=RVhKTMFCgq0>

単元 カナダのイヌイト 社会科 2学年  
探究的な学習

イヌイトは生活がどう変化してきたのか  
今、どう生きているのか

博物館見学  
本物の道具→発見していく  
考古学者、博物館の学芸員  
バーチャル博物館・ビデオ

24

### (3)教育方法:教授からアクティブラーニングへ



パキスタンの僻地に学校を建てるという絵本を読み聞かせ



「学校は何を提供しなければならないのか？」ブレインストーミング



「学校で学ぶために大切なものは何？」ダイヤモンドリンクを考える。  
写真:ペン、コンピュータ、宗教、携帯電話、インターネット、玩具、薬、本...



25

### (4)教育評価:テスト評価から真正の評価へ

#### 多様な評価方法の例

児童生徒の学びの深まりを把握するために、多様な評価方法の研究や取組が行われている。

#### 「パフォーマンス評価」

知識やスキルを使いこなす(活用・応用・統合)ことを求めるような評価方法。論説文やレポート、展示物といった完成作品(プロダクト)や、スピーチやプレゼンテーション、協同での問題解決、実験の実施といった実演(狭義のパフォーマンス)を評価する。

#### 「ルーブリック」

成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語(評価規準)からなる評価基準表。

項目	IV	III	II	I
項目	…できる …している	…できる …している	…できる …している	…できない …していない

記述語      ルーブリックのイメージ例

#### 「ポートフォリオ評価」

児童生徒の学習の過程や成果などの記録や作品を計画的にファイル等に集積。そのファイル等を活用して児童生徒の学習状況を把握するとともに、児童生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を示す。

教育課程企画特別部会 論点整理(平成27年8月26日)

## おわりに

工業社会(近代型能力)から知識基盤社会(ポスト近代型能力)へ  
変化の激しい予測のつかない社会を生き抜く力  
リテラシー概念の展開・読み書き能力から情報処理能力へ  
リテラシーからコンピテンシーへ

### コンピテンシーに基づく教育改革の国際的動向

イギリス、ドイツ、フランス、フィンランド、アメリカ、カナダ、  
オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、韓国

### 学びのイノベーション:TeachingからLearningへのパラダイム転換

教育目標:コンテンツからコンピテンシーへ  
教育内容・教材:学校知識からオーセンティックな知識へ  
教育方法:教授からアクティブラーニングへ  
教育評価:テスト評価から真正の評価へ

これからの日本語教育をどのように考えていけばよいのか?

27

## 参考文献

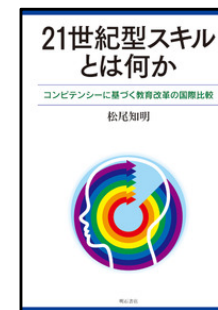
松尾知明、『教育課程・方法論—コンピテンシーを育てる授業デザイン』学文社、2014年。

松尾知明、『21世紀型スキルとは何か—コンピテンシーに関する教育改革の国際比較』明石書店、2015年。

グリフィン・マクゴー&ケア編(三宅ほなみ監訳)『21世紀型スキル—学びと評価の新しいかたち』2014年。

D. S. ライチェン・L. H. サルガニク(立田慶裕監訳)『キーコンピテンシー—国際標準の学力をめざして』明石書店、2006年。

松下佳代編著『<新しい能力>は教育を変えるか—学力・リテラシー・コンピテンシー』ミネルヴァ書房、2010年。



28

## 資料

### ・カリキュラムデザイナーとしての教師

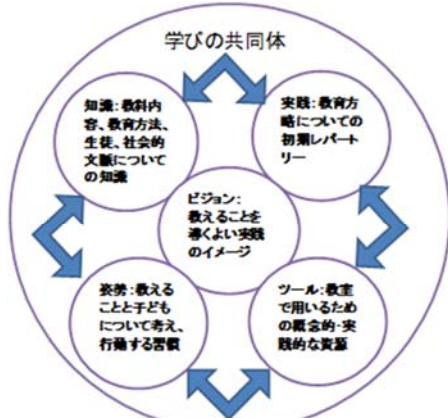
カリキュラムとは・・・教えるコース、学びの経験

### ・教師の仕事＝学び経験をデザイナーすること

教育のビジョンをもとに、

時間、空間、学習材、活動などの学習環境を再構成

### ・教師の力量形成の視点

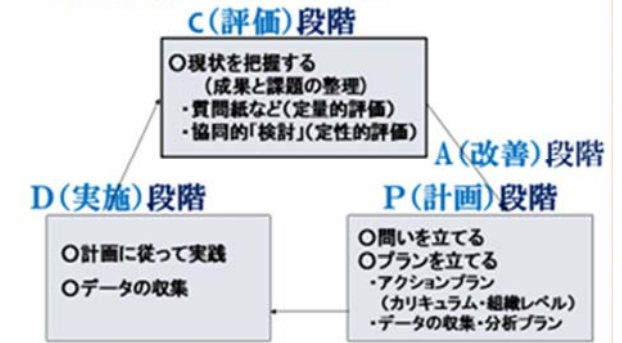


(出典)ダーリング・ハモンド・スノーデン、2009年、58頁。

- ① **ビジョン**(教育実践を方向づけるすぐれた教育のイメージ)
- ② **知識**(子ども、教科、指導などについての深い理解)
- ③ **ツール**(指導の理論やアプローチなどの概念的ツール、及び、教材、教具、評価の技法などの実践的ツール)
- ④ **実践**(つねに変化する複雑な状況の中で意思決定する授業という営み)
- ⑤ **姿勢**(省察したり実践から学んだりするなどの思考や行動の習慣)

## 資質・能力を育てるカリキュラム・マネジメント

1. 育みたい資質・能力像は、教育目標として機能していますか？
  - ・具体的な子どもの姿として教育目標を具体化する
2. そうした資質・能力を育成するための手立てが、具体化されていますか？
  - ・目標を実現するための具体的な**アクションプラン**を立てる
3. **P(Plan)→D(Do)→C(Check)→A(Action)→**のサイクルは動いていますか？
  - ・カリキュラムレベルのマネジメントを行う
4. 教育目標の達成に向けて**組織的に**取り組んでいますか？
  - ・効果的な条件整備を準備する・**アクションリサーチ**のPDCAサイクル



### ・EDUCATION2030・・・キー・コンピテンシーの再定義に向けて

2030の予想が困難な世界

知識(教科の・領域横断的・实际的知識)

認知的コンピテンシー(問題解決、批判的・創造的思考)

社会的コンピテンシー(協働、コミュニケーション、チームワーク、リーダーシップ)

情意的コンピテンシー(好奇心、勇気、共感、責任・・・)

心身の健康(健康な習慣、幸福感、身体的・精神的スキル・・・)

メタコンピテンシー(自己意識、自己調整、自己省察)

政策立案に生かす

### ・ PISA2018・・・グローバルコンピテンシー

知識

オープンで柔軟

感情的な強さやねばり

コミュニケーションと関係管理

相互に関係する、相互依存的で多様な世界に参加する際に、個人的に協働的に適切で効果的に行動し相互交渉する能力や態度

## これから求められる外国語教育

- ・コンテンツからコンピテンシーへ
- ・ TeachingからLearningへのパラダイム転換が必要

### ・めざすもの・・・21世紀型のコンピテンシー

教科等の役割分担

教科横断的な視点

### ・外国語教育の役割

言語の教育を通して・・・

グローバルコンピテンシー

他者／自己理解

自文化中心主義の克服

異なる他者ととともに生きる力の育成、多文化の共生

⇒アジア社会・グローバル社会の市民の育成

